

第三次湖南省総合計画（案）

目 次

第1部 はじめに

1. 策定にあたって 2

(1) 計画策定の趣旨 2

(2) 総合計画の構成と期間 2

(3) 計画の策定体制 3

(4) 目標設定と施策評価 3

(5) 総合戦略との一体的な取組 3

(6) SDGsの理念に基づく
持続可能なまちづくりを推進..... 3

2. 湖南市の現状 4

(1) 社会潮流 4

(2) 統計からみる湖南市の現状 6

①人口の状況 6

②産業の状況 11

(3) 市民ニーズ 14

①市民意向調査 14

②市民ワークショップ 19

第2部 基本構想

1. まちづくりの理念と将来像 22

まちの将来像 22

湖南市って、こんなまち

一湖南市の特徴 24

まちづくりの目標・めざすまちの方向性・
重要な政策テーマ 26

2. まちづくりの目標 28

まちづくりの目標1

みんなで共に進める仕組みをつくろう 28

まちづくりの目標2

うるおいのあるまちをつくろう 33

まちづくりの目標3

活気あるまちをつくろう 37

まちづくりの目標4

ほっとする暮らしをつくろう 43

まちづくりの目標5

いきいきとした暮らしをつくろう 49

まちづくりの目標6

明日を拓く^{ひら}仕組みをつくろう 54

第3部 基本計画

前期基本計画の基本目標	58
前期基本計画の見方	60
前期基本計画	62
第1章 小規模多機能自治のまちづくり ～みんなで共に進める仕組みをつくろう～	62
第2章 自然を生かし、 自然と共生するまちづくり ～うるおいのあるまちをつくろう～	76
第3章 人と産業が集い、 公共交通でつながるまちづくり ～活気あるまちをつくろう～	88
第4章 こどもが主役の、生涯健康で 安心して暮らせるまちづくり ～ほっとする暮らしをつくろう～	110
第5章 市民文化を築き、育み、 伝えるまちづくり ～いきいきとした暮らしをつくろう～	136
第6章 効率的・効果的な 行財政システムと人づくり ～明日を拓く仕組みをつくろう～	146

第4部 総合戦略

第三期湖南省総合戦略

～まち・ひと・しごとに笑顔があふれる4つのプラン～

1. 地方創生の基本的な考え方 (国・県の考え方)	153
2. 第三次湖南省総合計画と 連動した取組	156
3. 人口ビジョンからのアプローチ	157
4. 4つのプランと目標指標	159
5. 7つの政策パッケージ	160
1. 働く場の創出プラン	161
(1) 産業力の強化	161
(2) 多様な雇用・働き方の実現	164
2. ひとの流れの創出プラン	166
(3) ふるさとづくりの促進	166
(4) 観光と交流による活性化	169
3. こどもまんなかプラン	171
(5) こどもの幸せ、将来の希望の実現	172
4. まちづくりプラン	174
(6) 持続可能なまちづくり	174
(7) 安心して暮らせる基盤づくり	177

第1部
はじめに



1. 策定にあたって

1. 策定にあたって

(1) 計画策定の趣旨

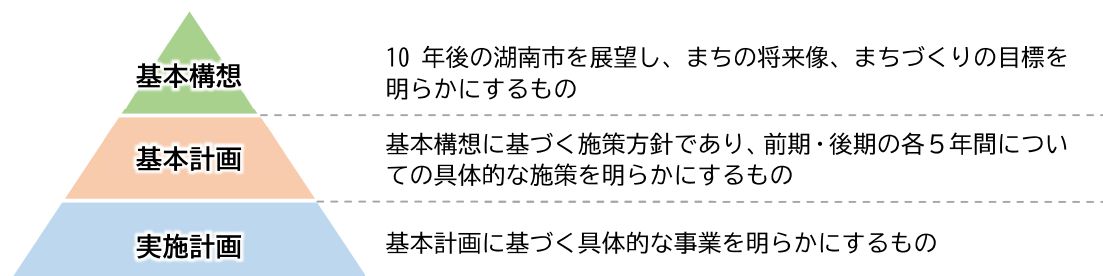
湖南省では2016年（平成28年）に第二次湖南省総合計画を策定し、基本構想に掲げる将来像「ずっとここに暮らしたい！ みんなで創ろう きらめき湖南」の実現に向け、さまざまな施策に取り組んできました。

第二次湖南省総合計画の計画期間が2025年度（令和7年度）で終了することから、近年の社会経済情勢の変化やまちづくりの進展状況を踏まえ、改めて市民の意向を確認しながら、新たな課題に対応した施策展開を図るため、第三次湖南省総合計画の基本構想および前期基本計画を策定します。

(2) 総合計画の構成と期間

① 計画の構成

総合計画を一言で表わすと、市における「まちづくりの最も基本となる計画」です。総合計画は、基本構想、基本計画および実施計画により構成します。

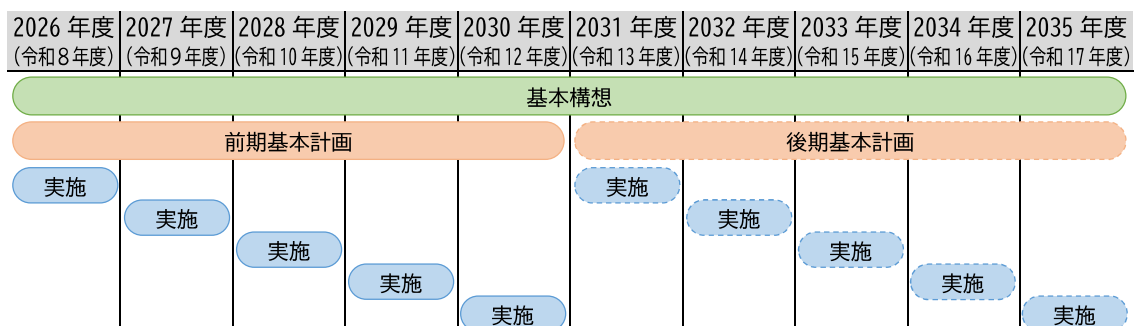


② 計画の期間

基本構想は、10年後の湖南省を展望し策定します。

基本計画は、2026～2030年度（令和8～12年度）までを前期基本計画、2031～2035年度（令和13～17年度）までを後期基本計画とし、それぞれ5年間を計画期間として策定します。

実施計画は、毎年見直す方式（ローリング方式）により別途策定します。





(3) 計画の策定体制

本計画は、一般公募の市民などで構成する総合計画審議会が中心となって策定し、審議会については一般公開を行いました。また、18 歳以上の市民をはじめ、中学生や高校生を対象とした市民意向調査（アンケート調査）を実施するとともに、計画案を公開した上で市民から意見を求め、これらの結果を計画内容に反映するよう努めました。

(4) 目標設定と施策評価

将来像の実現に向けた施策の達成状況を市民にわかりやすくするため、市民意向調査などに基づく基本目標を設定し、進捗状況のチェックによる施策評価を行います。

(5) 総合戦略との一体的な取組

現行の湖南省市きらめき・ときめき・元気創生総合戦略の計画期間満了に伴い、第三期総合戦略を本計画と一体的に実行することで、効果的かつ効率的に取組を推進します。

(6) S D G s の理念に基づく持続可能なまちづくりを推進

S D G s とは、「Sustainable Development Goals」の略であり、2015 年（平成 27 年）9 月の国連サミットにおいて全会一致で採択された国際社会の共通目標です。「だれ一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向けて、「2030 年（令和 12 年）」を年限とする 17 のゴールと 169 のターゲットから構成されています。

湖南省は、2020 年（令和 2 年）7 月に「S D G s 未来都市」として内閣総理大臣から認定を受けており、S D G s の理念に基づき地域課題の解決につなげていきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





2. 湖南省の現状

2. 湖南省の現状

(1) 社会潮流

これからのまちづくりを考える上で考慮すべき全国的な社会の潮流を整理します。

暮らしを取り巻く環境

■人口減少・少子高齢化の進行、こども施策の推進

- 出生率の低下と平均寿命の延伸により、人口減少・少子高齢化が加速しています。
- 少子化対策として、子育て支援や教育環境の整備などのこども施策が進められています。

■自然災害の激甚化・頻発化、防災・減災対策の推進

- 気候変動の影響により、豪雨や台風、洪水、土砂災害、地震などの自然災害がこれまで以上に激しく頻繁に発生しています。
- 防災・減災の取組が社会的に重要視され、排水対策の強化、施設の耐震化などが進められるとともに、地域住民や事業者による自主的な防災・減災活動を促進する取組も拡大しています。

■脱炭素化の推進、環境配慮への投資拡大

- 2050年カーボンニュートラル（温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること）や、脱炭素社会の実現をめざすことが宣言され、脱炭素を通じて地域課題を解決し、地方創生に寄与する取組が広がっています。
- ESG投資（環境、社会、企業統治に配慮している企業に行う投資）が拡大しています。

■SDGsの推進

- SDGs（持続可能な開発目標）は、国際的な共通目標として、日本でも達成に向けた取組が進められています。
- 経済、社会、環境をめぐる幅広い課題への対応としてさまざまな主体の取組が求められています。

■感染症対策（新たな生活様式）の定着

- 新型コロナウイルス感染症の流行を受け、感染リスク低減のため、リモートワークや非接触・非対面での医療相談、行政手続きなどが普及しています。

■GXの推進

- 脱炭素社会の実現に向けた取組を通じて、経済や社会システムを変革するGX（グリーントランスフォーメーション）を推進しています。

■DXの推進

- コロナ禍を契機としたデジタル技術の進展やポストコロナの時代における「人間中心の社会」への機運の高まりを背景として、あらゆる分野でデジタル技術を活用し、地域や社会の課題を解決するDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進が求められています。



ひとを取り巻く環境

■グローバル化、多文化共生、 多様な価値観の尊重

- グローバル化が進む現代において、多様性（ダイバーシティ）や性別の枠組みにとらわれない（ジェンダーレス）などの考え方が普及し、性別や年齢、国籍、文化などに関わりなく、多様性を尊重しながら個性や能力を十分に発揮することができる社会の構築が求められています。

■Well-Beingの推進

- 社会的、経済的、環境的に個人の権利や自己実現が保障され、良好な状態にあることを指す「Well-being」の考え方が普及しています。
- 働き方改革やコロナ禍でライフスタイルの多様化が進み、家庭や職場・学校などとは違う、リラックスできて心地のよい第3の居場所「サードプレイス」の重要性が高まっています。

自治を取り巻く環境

■地方創生の視点でのまちづくり

- 地方から都市への一極集中を是正するため、地方自治体が主体となり、それぞれの課題を解決しながら、地域独自の魅力を生かし、地方の活性化と持続可能なまちづくりに取り組んでいくことが求められています。

■市民と行政の協働による まちづくり

- 人口減少・少子高齢化の進行に伴い、地域課題は多様化し、行政だけではきめ細かく対応することが困難になってきています。市民と行政がともに助け合い一体となってまちづくりに取り組んでいくことが求められています。

■民間資本・ノウハウの導入

- 多くの地方公共団体では、厳しい財政状況や人口減少、公共施設の老朽化などの問題に直面しており、民間資本やノウハウを取り入れて魅力向上を図りながら公共施設の管理運営を継続していく官民連携事業が全国で検討・実施されています。

■5G社会における情報通信技術 の有効活用

- 第5世代通信（5G）の普及とともに、AI、モノのインターネット（IoT）などの最新のデジタル技術の活用により、都市や地域の機能やサービスを効率化・高度化し、課題の解決を図りながら、生活の質の向上を図るスマートシティの取組が進められています。

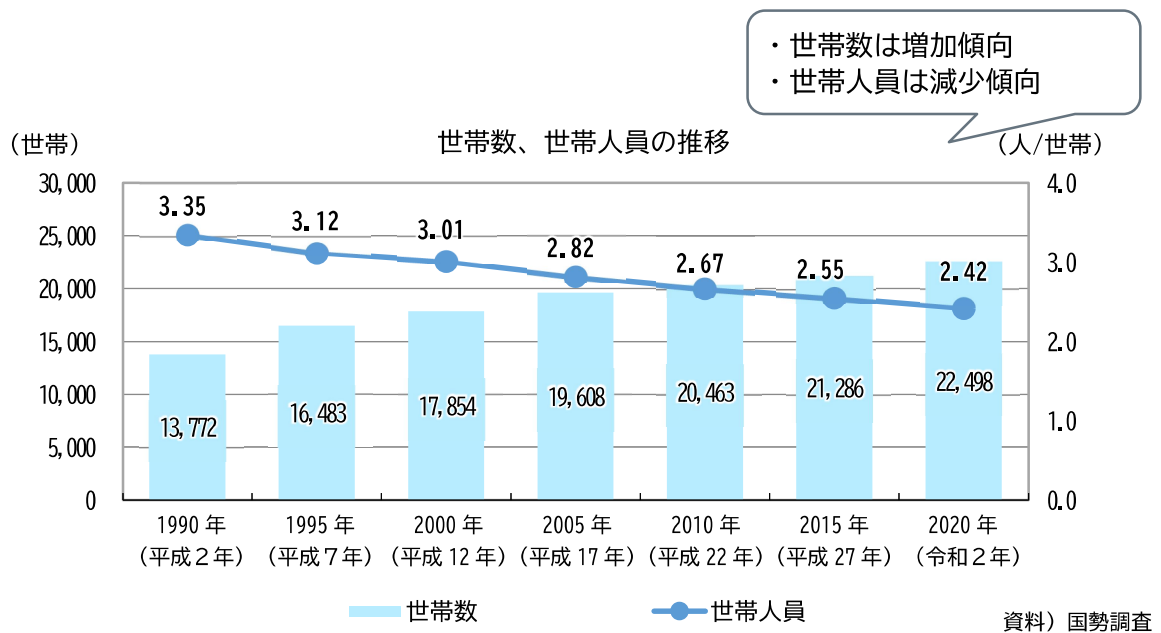
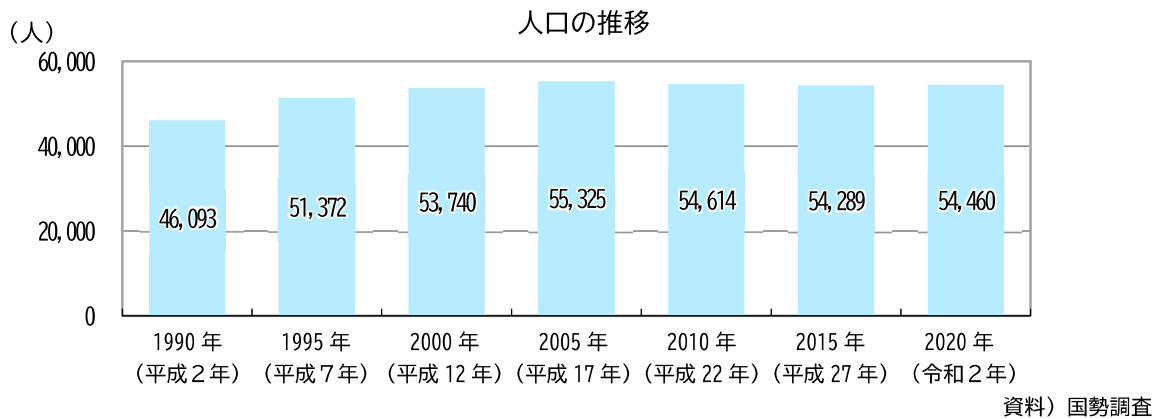


2. 湖南市の現状

(2) 統計からみる湖南市の現状

①人口の状況

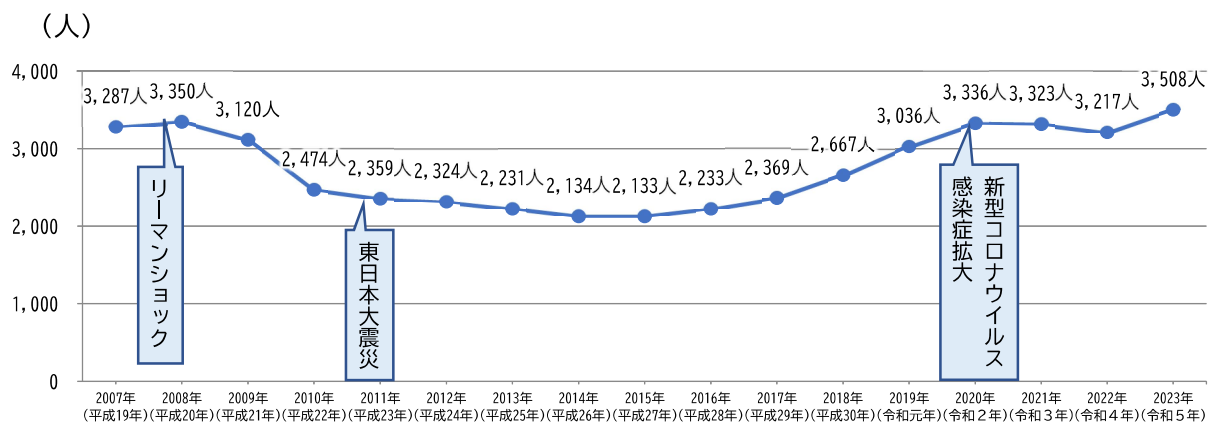
■総人口・世帯数の推移





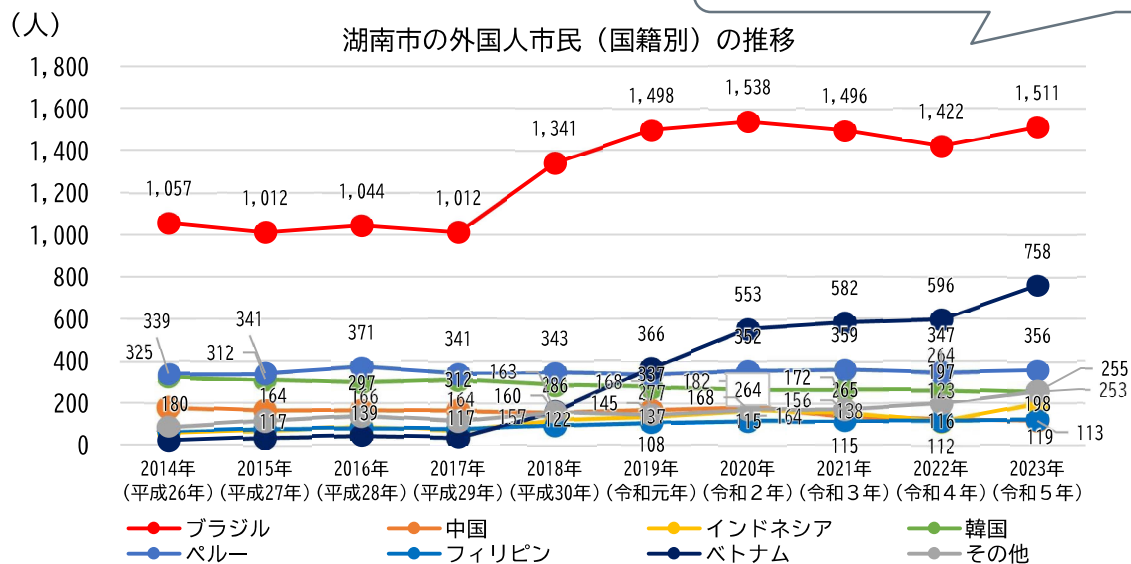
2. 湖南市の現状

■外国人市民（総数）の推移



資料) 住民基本台帳

■外国人市民（国籍別）の推移



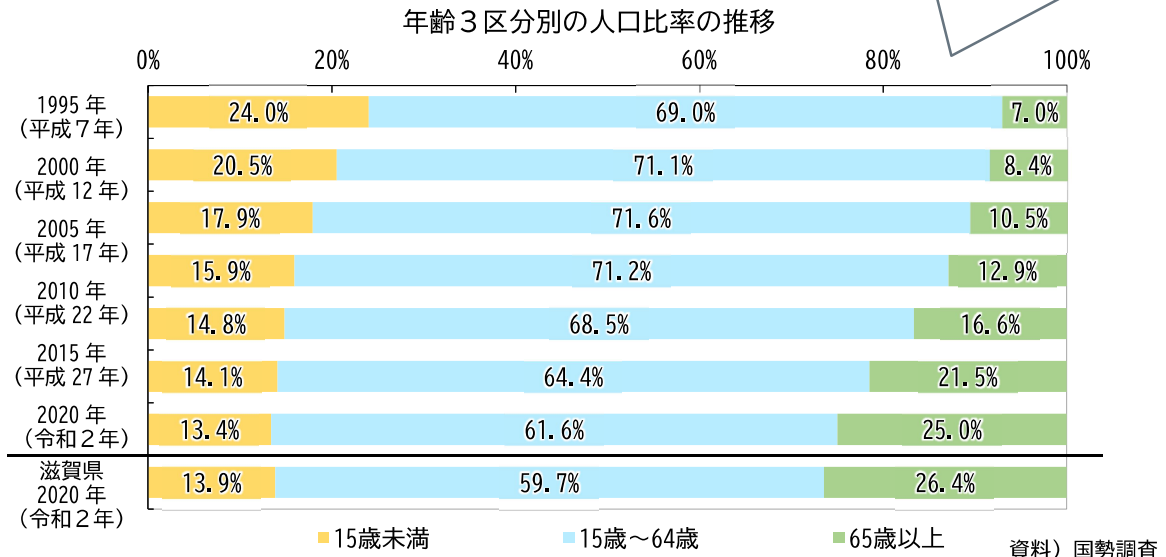
※100人未満は数値を非表示
資料) 住民基本台帳



2. 湖南市の現状

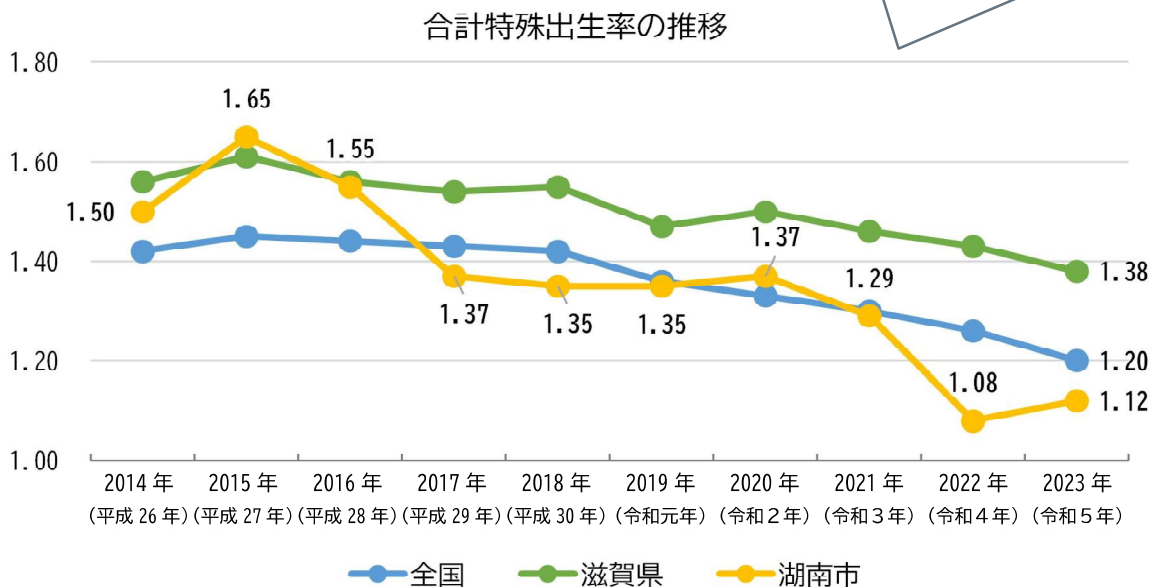
■ 年齢3区分別人口比率の推移

- ・年少人口（15歳未満）・生産年齢人口（15歳～64歳）は減少傾向
- ・老年人口（65歳以上）は増加傾向



■ 合計特殊出生率の推移

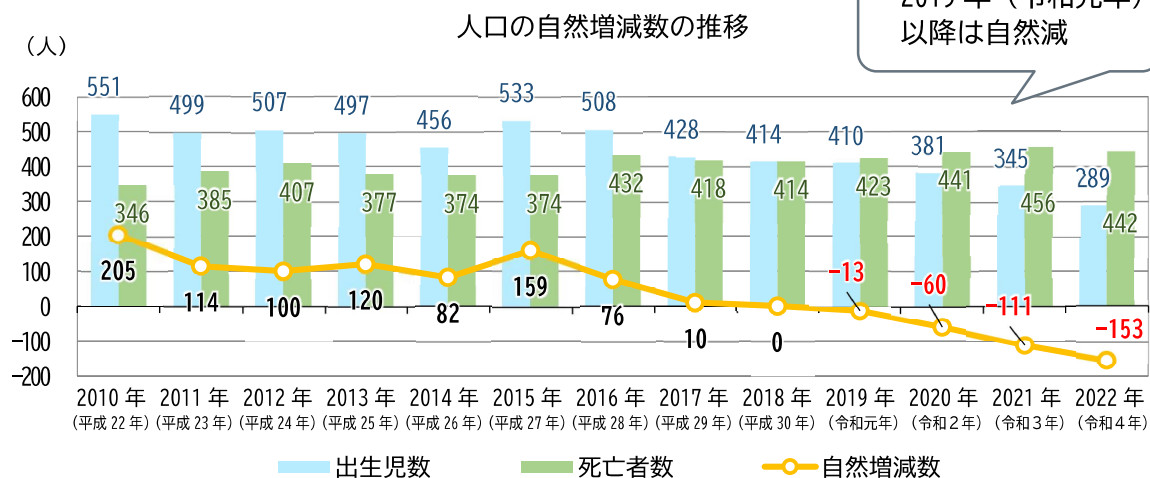
- ・合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が生涯に産む子どもの平均人数を推計した指標





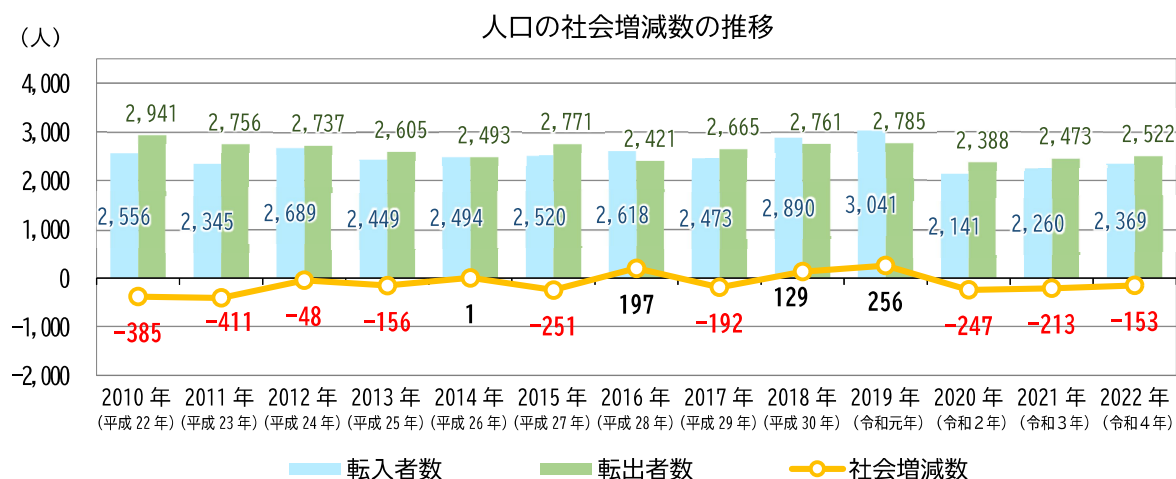
2. 湖南省の現状

■自然動態（出生・死亡）の推移



資料）総務省統計局

■社会動態（転入・転出）の推移



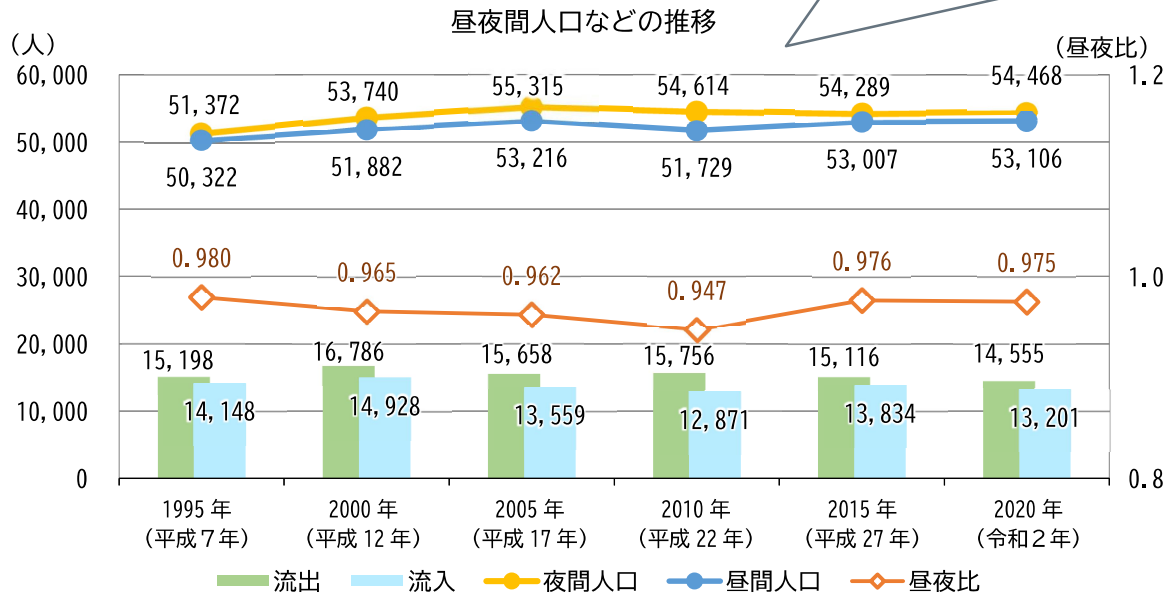
資料）総務省統計局



2. 湖南市の現状

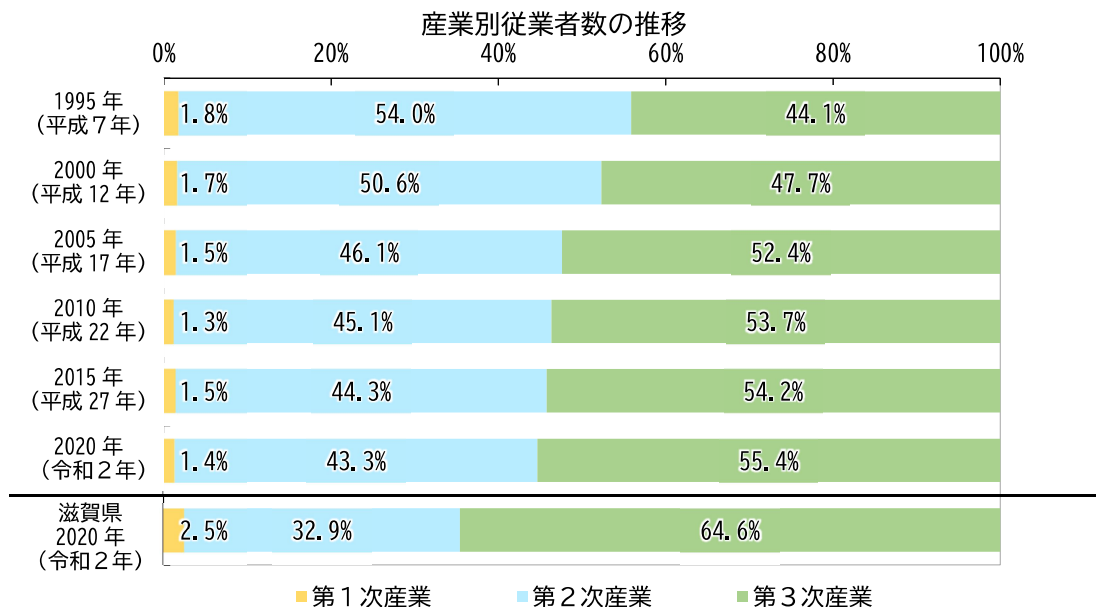
■昼夜間人口比率

・昼間人口は、その地域に住んでいる夜間人口に、通勤・通学で流入してくる人口を足し、流出する人口を引いたものです。夜間人口は、その地域に住んでいる住民の数で、一般的に「人口」と呼ばれるもの



資料) 国勢調査

■産業別従業者数



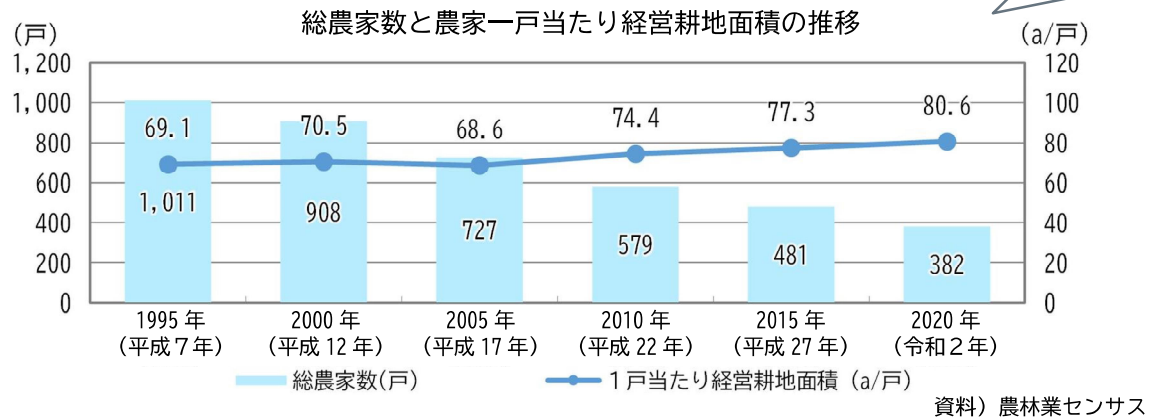
資料) 国勢調査

- ・少子化により、湖南市の人口は2005年(平成17年)をピークに減少傾向であり、人口が減る中でも高齢者世帯の増加が進むことで世帯数は増加傾向です。
- ・湖南市は、外国人労働者の流入による影響緩和の要素もありますが、人口減少は働き手の不足につながり、世帯数が減少を迎えると消費の減少にも直結します。住宅需要など、地域経済への影響に備えることが必要です。
- ・従業者数の割合は、第1次、第2次産業は減少傾向、第3次産業は増加傾向です。
- ・生産年齢人口の減少により、後継者不足の課題に直面する中小企業などの増加が想定されます。多様な人材や若者、女性が活躍する魅力的な働く場や人づくりが必要です。

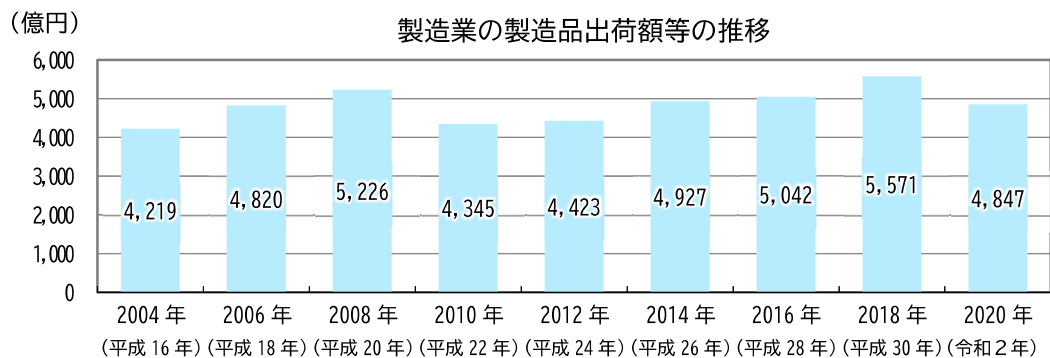
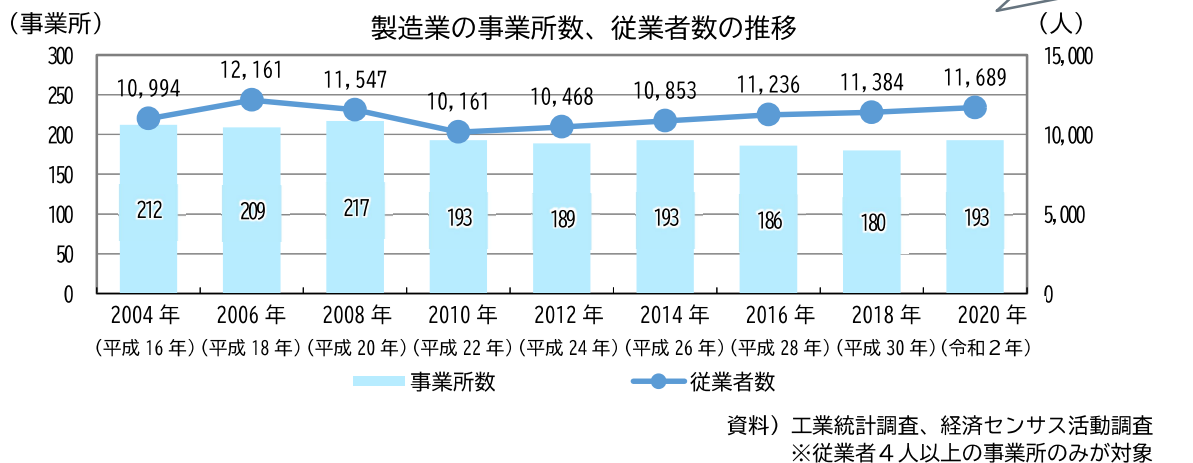


②産業の状況

■農業



■工業

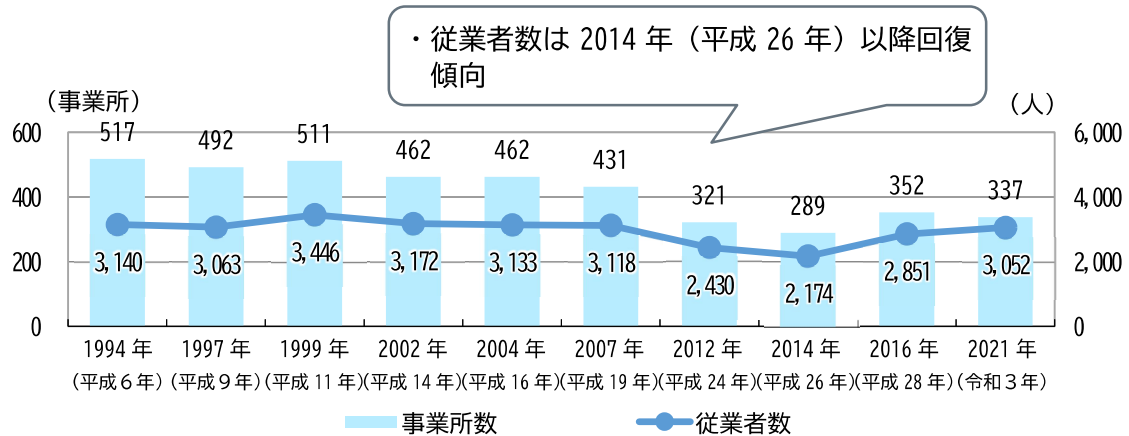




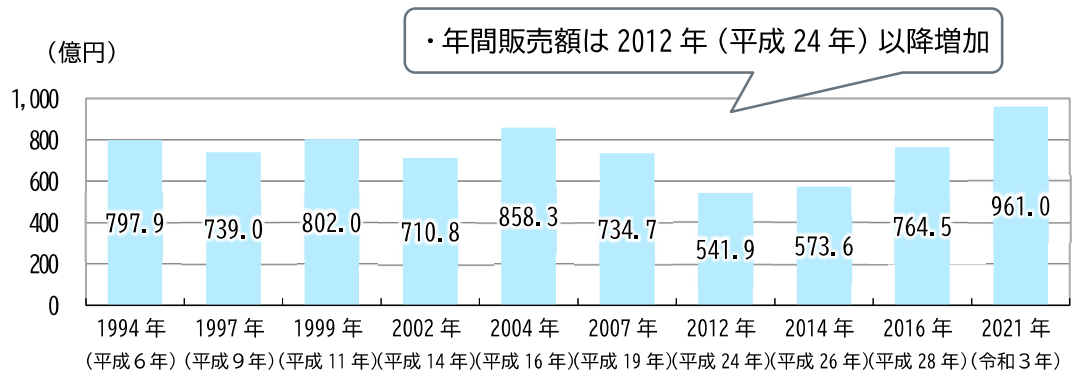
2. 湖南市の現状

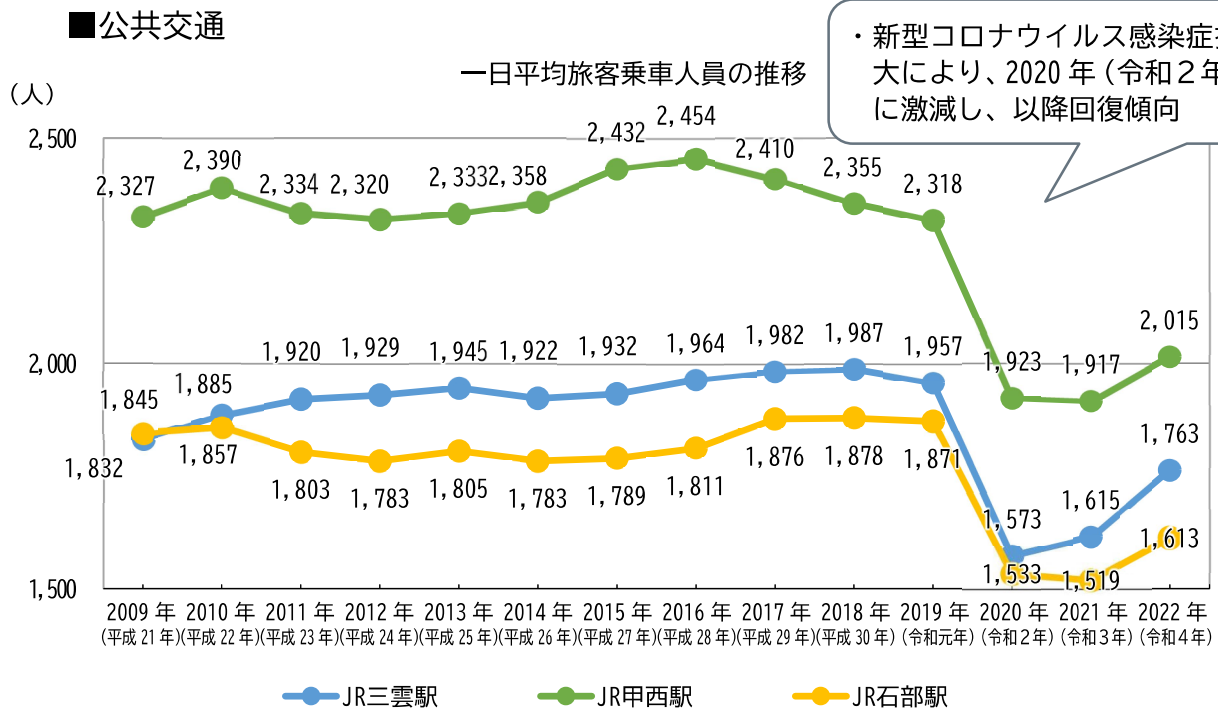
■商業

卸売業・小売業の事業所数、従業者数の推移



卸売業・小売業の年間販売額の推移





- ・工業における製造業の従業者数や商業における卸売業・小売業の従業者数は増加傾向です。
- ・デジタルや省エネ・再エネ、インバウンド需要などの成長が見込まれる分野を視野に入れた地域産業の振興や、これまで湖南市のものづくり産業を支えてきた経営者や職人の人財に重きをおき、生産性の向上や技術継承など、持続可能な産業基盤の強化が必要です。
- ・コミュニティバスを含め、公共交通の利便性向上に向け、草津線の増便や企業・市民の利用増進のための施策を、市全体で協働しながら着実に実行していくことが重要です。



2. 湖南市の現状

(3) 市民ニーズ

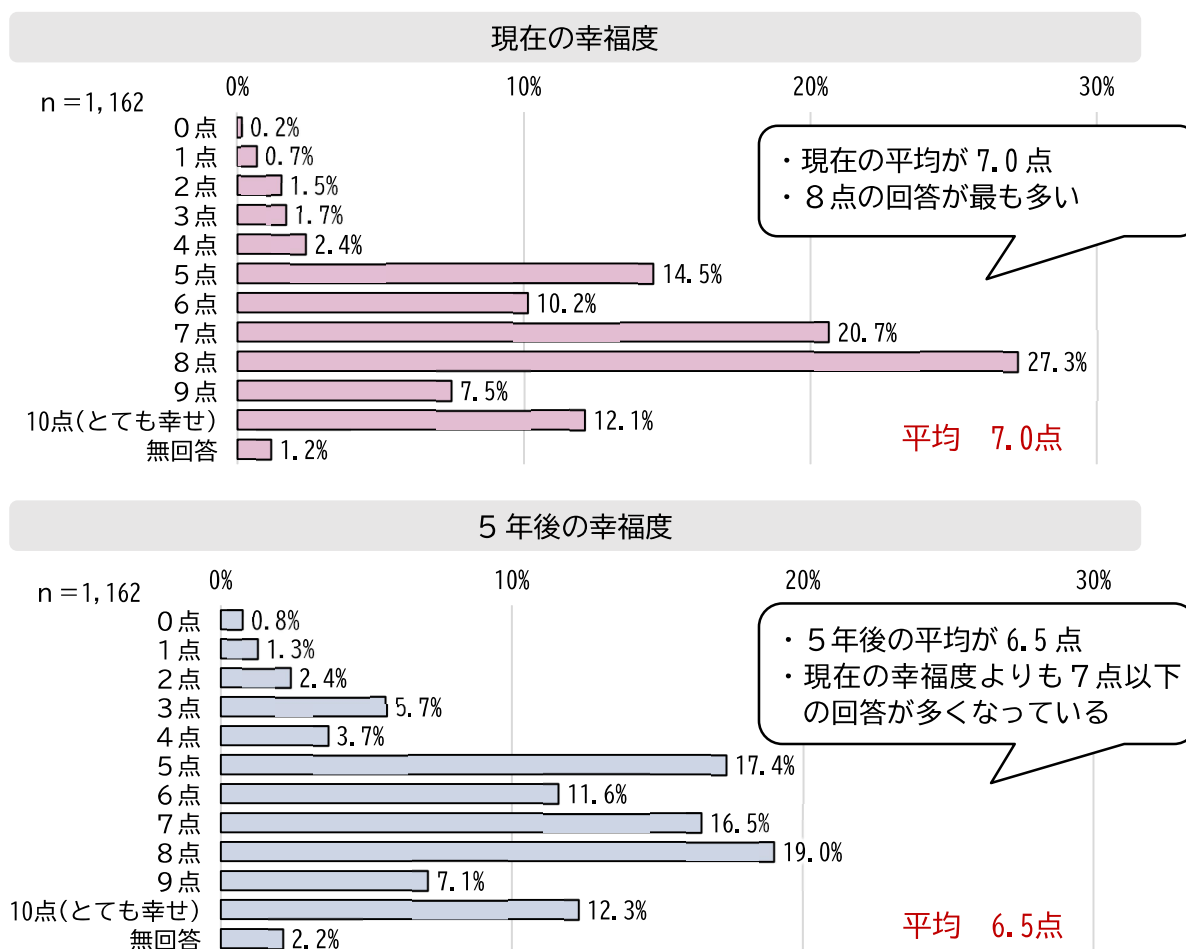
①市民意向調査

■調査概要

調査概要	アンケート調査の対象者		
	一般	高校生	中学生
実施期間	2024 年（令和 6 年） 9 月 9 日（月）～9 月 30 日（月）	2024 年（令和 6 年） 10 月～11 月に実施	
調査方法	発送は郵送、 回答は郵送およびWEB回答	WEB回答	
配布数	4,000 件	330 人	965 人
有効回答数	1,162 人（うちWEBは 178 人）	303 人	812 人
回収率	29.0%	91.8%	84.1%

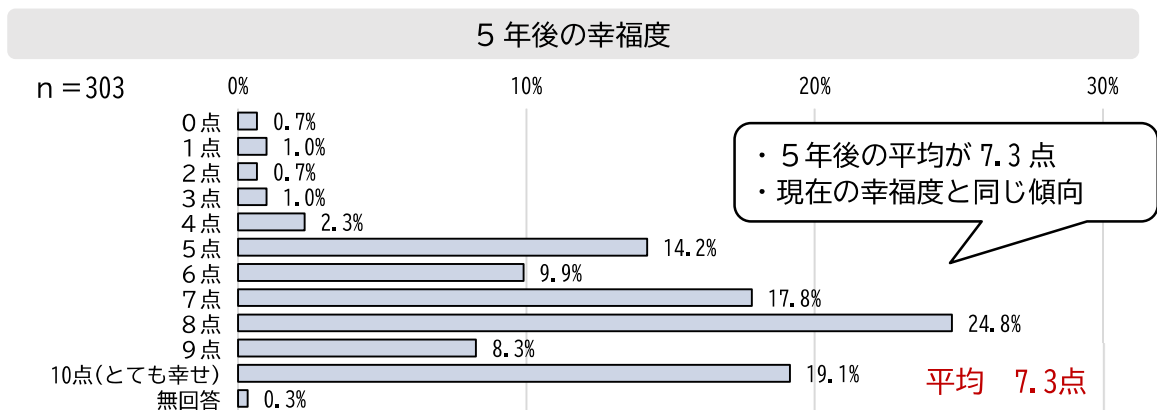
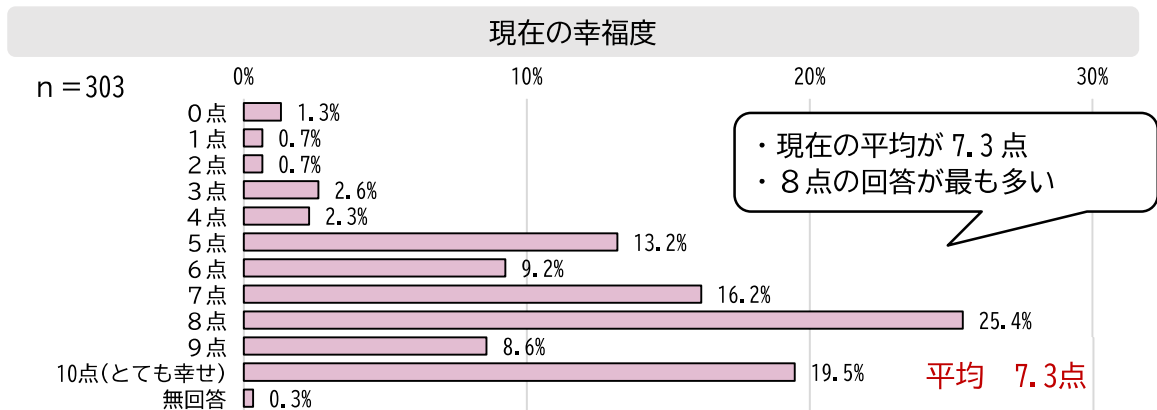
■あなたの幸福度

【一般】

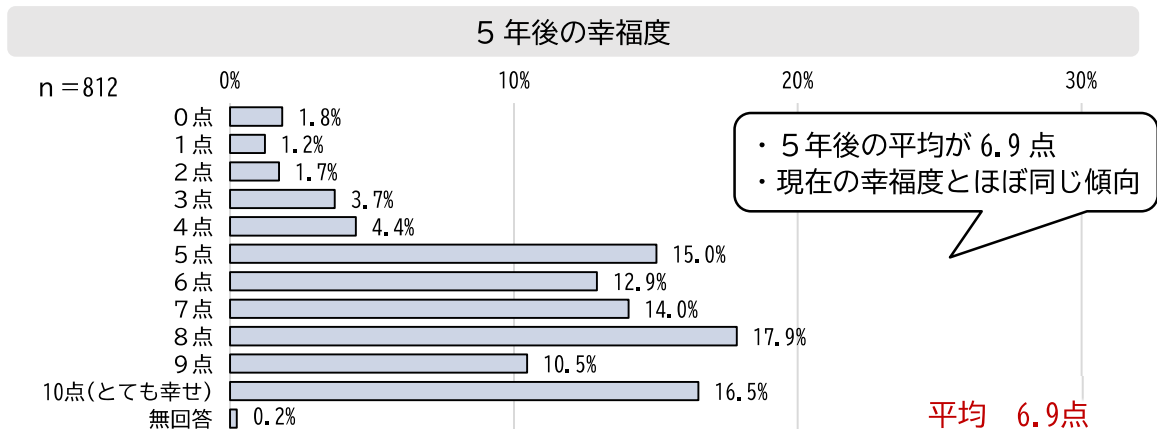
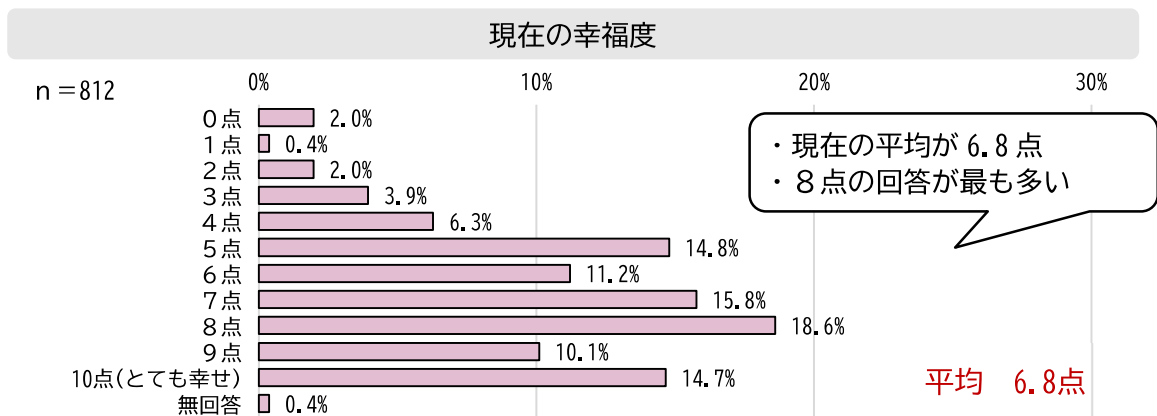




【高校生】



【中学生】



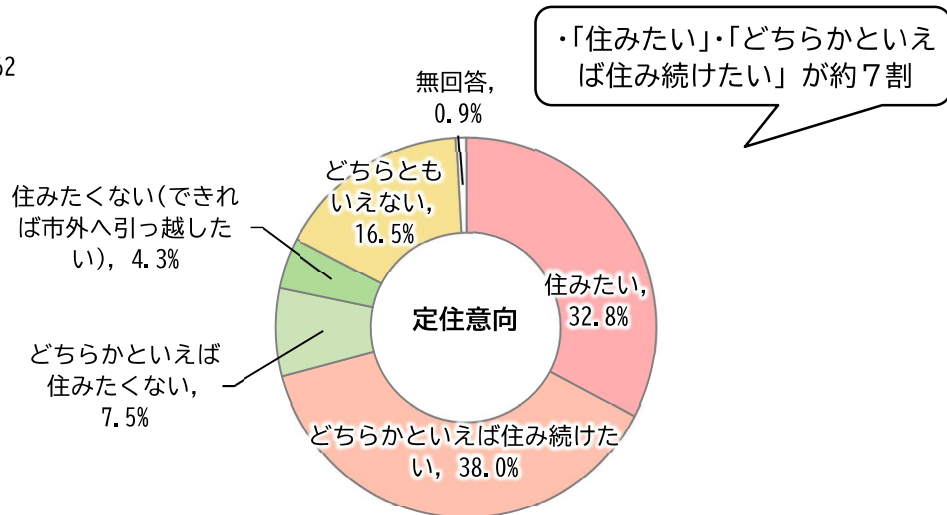


2. 湖南省の現状

■ 湖南省への定住意向

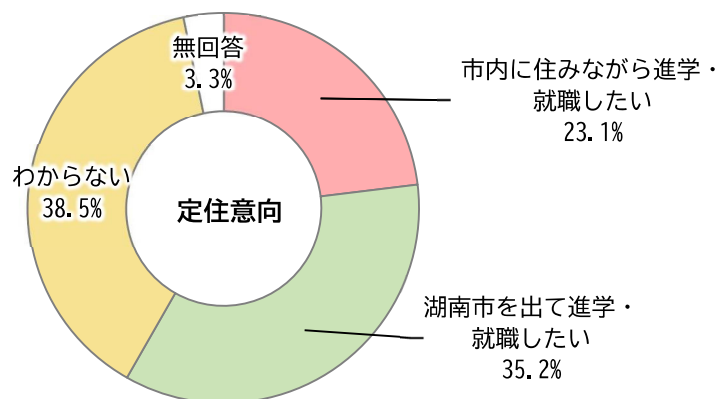
【一般】

n=1,162



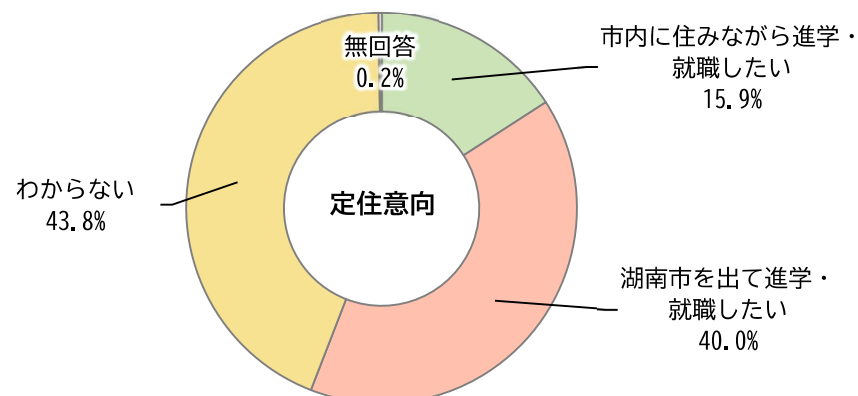
【高校生】

n=91



【中学生】

n=812

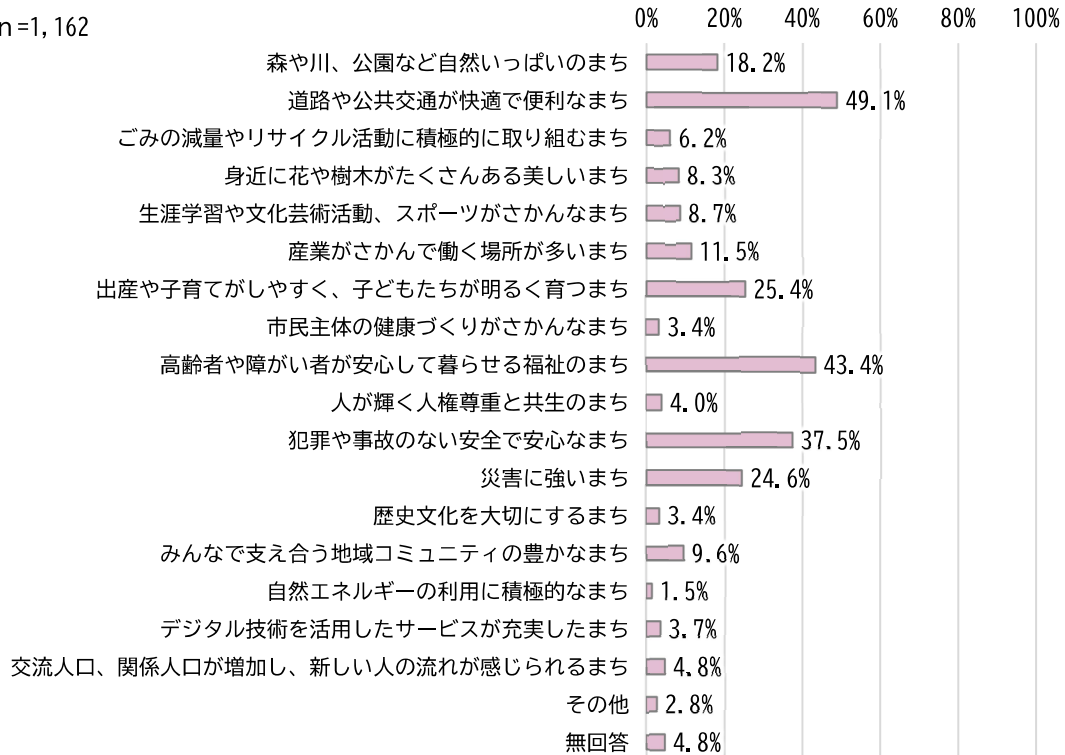




■みんなが住みたい湖南省のまちのイメージ

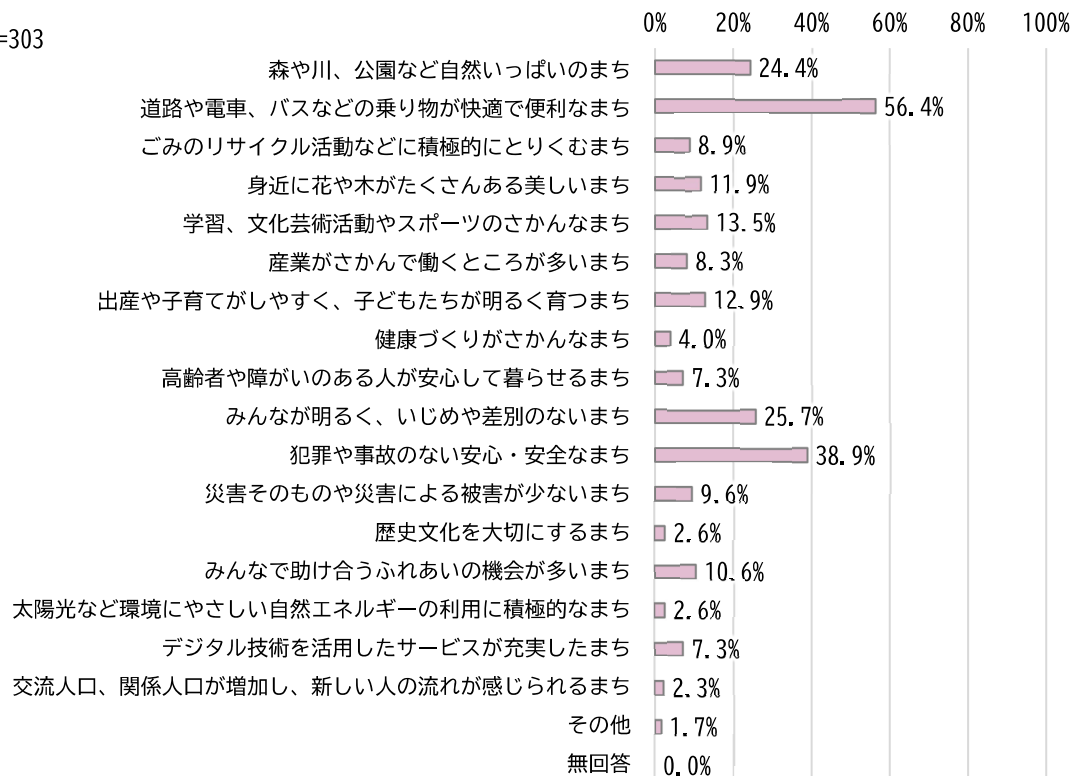
【一般】

n=1,162



【高校生】

n=303

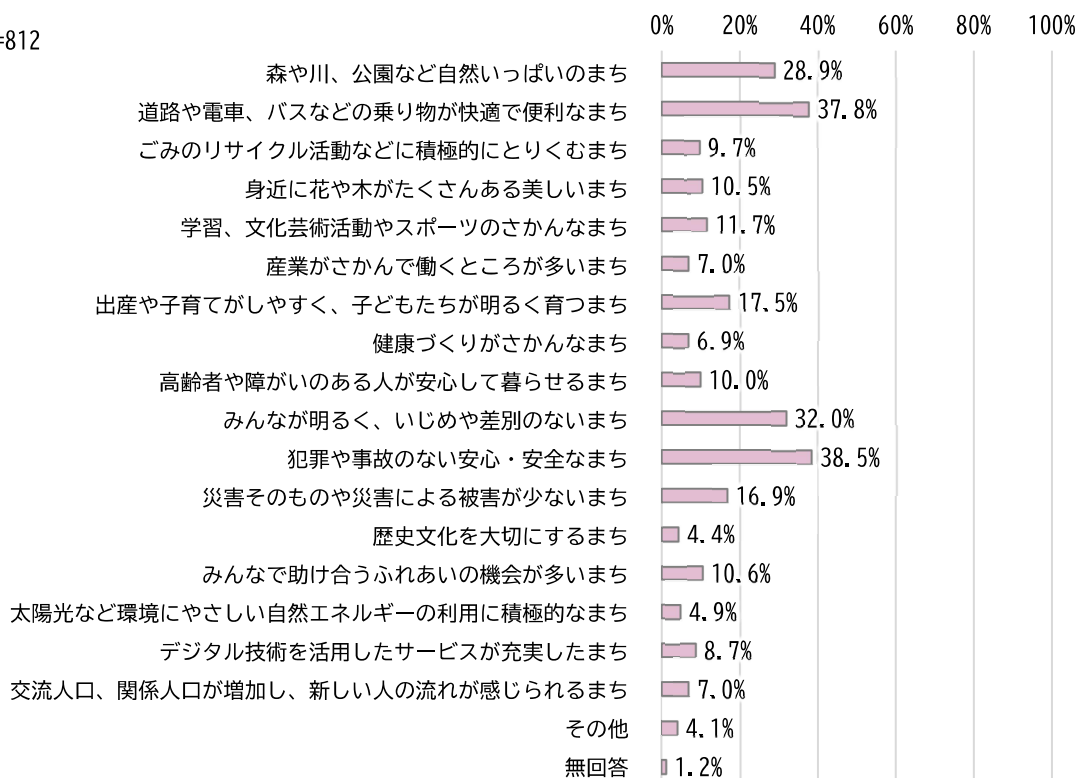




2. 湖南省の現状

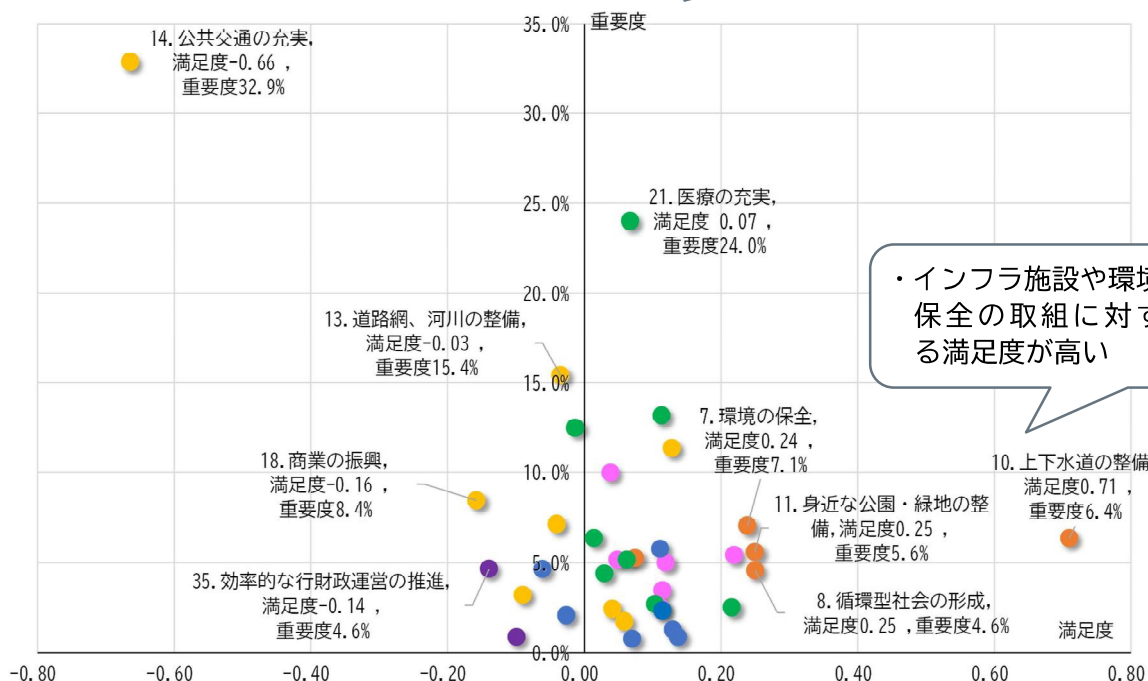
【中学生】

n=812



■ 湖南省の取組について 【一般のみ】

・公共交通やインフラ施設、医療の充実、
ライフライン関係を重要視している



・インフラ施設や環境
保全の取組に対する
満足度が高い

・特に、公共交通を充実させ、快適性・利便性の向上を図ることや、医療を充実させ、高齢者などが安心して暮らせるまちづくりを進めていくことが求められています。



②市民ワークショップ

■実施概要

公募などにより参加者を募集し、21人の市民と7人の市内中学生がグループに分かれ、全4回のワークショップで6つのグループでテーマに分かれて話し合いました。

グループ テーマ	①市民主体のまちづくり ②身近な公園・緑地の整備・保全 ③公共交通の充実		④障がいのある人、高齢者、こどもの自立支援 ⑤若者の社会参画、社会教育の推進、一人一人が活躍できるまち（場づくり） ⑥特色のあるふるさとづくり	
回数	第1回	第2回	第3回	第4回
開催日	2024 年（令和 6 年） 12 月 15 日（日）	2025 年（令和 7 年） 1 月 19 日（日）	2025 年（令和 7 年） 2 月 16 日（日）	2025 年（令和 7 年） 3 月 16 日（日）
主な 検討内容	湖南市の魅力や 改善点、取り上げ たいテーマ	テーマに沿って 重要な取組や 方向性	重要な取組や 方向性に沿った 企画アイデア	みんなでつくる 将来のまちの姿

■市民の意見、アイデア

湖南市の良いところ

地域でまちづくり活動をしている
自然が豊かな
公園が多い
歴史がある
色んな人がいて差別がない
高齢者福祉に力を入れている
障がいのある人が尊重されている
エネルギーの取組が進んでいる
車での移動がしやすい
治安がいい
第2次産業が发展している
伝統を大切にしている
鉄道駅が3つある

湖南市の課題

地域活動の担い手不足
交流・ふれあいの場が少ない
公園管理の負担が増加
バス運営状況が厳しい
近所との繋がりが希薄
歴史資源が活用しきれていない
困り事の相談先がわからない
若者の湖南市離れ
独居高齢者が増えている
湖南市に特徴的なものがない
湖南市の知名度が低い
湖南市の施策の認知不足
社会問題への変化への対応が十分ではない



課題の解決策や方向性・具体的な企画案

次世代の担い手も参加したくなる自治会づくり
世代を超えた交流・ふれあいの機会創出
官民連携で困り事に対応する仕組みづくり
総合相談窓口の設置
自治会の重要性を伝える
今ある施設を活用した全天候型遊び場、多目的な公園の整備
オープンスペースの配置
悩みを話せる機会づくり
公園管理の効率化
河川空間の活用
移動しやすい環境づくり
新たな交通手段の導入
地域資源を活用した魅力づくり
利用実態に応じたバスの運用
地産地消のNEWソウルフードづくり





2. 湖南市の現状

■グループごとに検討した「みんなで作る将来のまちの姿」

グループ・テーマ	みんなで作る将来のまちの姿	
	5年後のめざす姿	10年後の希望
① 市民主体の まちづくり	▶ 40～50 歳代が地域の中で活躍し、若者が楽しめる地域行事やイベントが充実し、多世代のふれあいの機会が増え、気軽に自分の意見を言える風通しの良い自治会になる	▶ 40～50 歳代が中心となって、小学生・中学生・高校生に地域コミュニティ活動を楽しみながら経験する機会をつくる ▶ 全世代が地域で活躍できる機会・場がある活発なまち・地域になる
② 身近な公園・緑地 の整備・保全	▶ 子育て世帯が住みやすいまちになり、定住者が増える	▶ 地域ふれあい公園を大きさや機能、管理体制に応じて分類・整理し管理を効率化する ▶ 利用状況を調べ、利用が少ない公園など不要な公園は統合するなど検討する ▶ 小さい公園は、地元自治会で管理する ▶ 利用状況や管理状況がだれでもわかるように公園管理アプリを導入して効率化する
③ 公共交通の充実	▶ 公共交通を利用して通勤・通学や観光ができる ▶ 高齢者は移動販売や送迎サービスを利用しながら日常生活を送ることができる	▶ 市内3駅を中心としたコンパクトなまちづくり(駅周辺に企業誘致、居住地開発、既存の商店街活性化など)に取り組む ▶ 既存の商業施設、職場、居住地をつなぐ交通ネットワークを整備する(コミュニティバスの見直し(料金やルートなど)、ライドシェア・乗り合いタクシーの導入、国道1号の拡幅など) ▶ 適正な規模でこどもたちの学校などを再配置する
④ 障がいのある人、 高齢者、こどもの 自立支援	▶ SNSで住みやすい湖南市の口コミが広がり、困ったときに相談できる心強さや定住のしやすさで選ばれ、人口が増え続けている	▶ だれもが夢を持てる湖南市(「人の力を生かす(窓口の充実)」、「だれもが社会に参加できる」)にする
⑤ 若者の社会参画、 社会教育の推進、 一人一人が活躍で きるまち(場づくり)	▶ 引っ越してきた世帯が地域コミュニティに馴染み、親世代が地域見守り活動への参加や相談を受ける側になり、成長したこども世代が湖南市に居住し続ける	▶ 小規模多機能自治の取組と連携する ▶ 『やさしいまち』(安心できるまち、ニコニコできるまち、福祉のまち、一人一人違う人に寄り添うまち、受け止められるまち、一人一人が輝いているまち)にする
⑥ 特色のある ふるさとづくり	▶ 新たなソウルフードのアイデアを出した学生が市内でお店を構え、製作に協力した企業の知名度が向上し、地域の活性化につながる	▶ 若者が湖南市に詳しくなって外に発信する ▶ 若者から情報を他の世代に伝えていく仕組みができる



第2部 基本構想



1. まちづくりの理念と将来像

1. まちづくりの理念と将来像

まちの将来像

市民、地域、企業、行政の協働によって生涯住み続けたいとなるまちをめざし、
湖南市の将来像（10年後）を、以下のように定めます。

【KGI（重要目標達成指標）】

10年後の目標：住民幸福度 7.2点

（基準値※ 7.0点）

※基準値は市民意向調査における住民幸福度

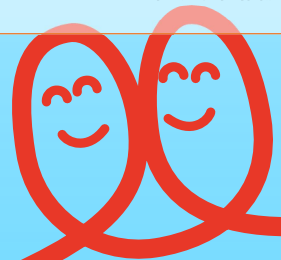
まちの将来像

ずっとここに暮らしたい！

みんなで創ろう

笑顔つなぐ・

つながる湖南



若者からシニアまで全世代が地域
コミュニティで活躍できる機会・
場があり、地域住民の交流が活発
で地域づくりが継承されている

文化・芸術やスポーツなどさまざま
なアクティビティを通じて仲間が集
まり、読書や散歩など自由に時間を
過ごせる多目的な空間がある



利用しやすく人が集い憩う快適な
大規模公園、プロムナード、地域
住民が使いやすく管理しやすい身
近な公園が適切に配置されている

